

仕様

単位mm

	機種名	測定項目	機種名
	MFF-50		MFF-50
フレーム材料	アルミ	駆動輪（主輪）(inch)	14
シート材料	PVC	キャスト径 (inch)	6
アームサポートタイプ	上下式	前座高	500
アームサポート	PVC	後座高	480
サイドガード	なし	シート奥行	420
グリップ	PVC	シート幅	460
バックサポート	スリングシート	バックサポート高	800
背折れ	なし	フットサポート・シート間距離	390
フット・レッグサポートタイプ	バックサポート連動	アームサポート高	0/260
フットサポート	固定式	全高	1300
キャスト	6"ソフトフォーミング	全幅	620
タイヤ	ハイポリマータイヤ(黒)	全長(※1)	1220
制動用ブレーキ	あり ドラムブレーキ	折りたたみ全高	810
ハンドリム	なし	折りたたみ全幅	620
駐車用ブレーキ	足踏みブレーキ	折りたたみ全長	1100
		重量 (kg)	24.2

※1 リクライニング時は最大2000mm

静的安定性試験方法（弊社ではJIS T9201 10.1.2a方式にて試験を行っています。）

キャストが交換可能な場合、推奨するキャスト径は上記キャスト径になります。

アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- ・ 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保証

- ・ 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

本製品の廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

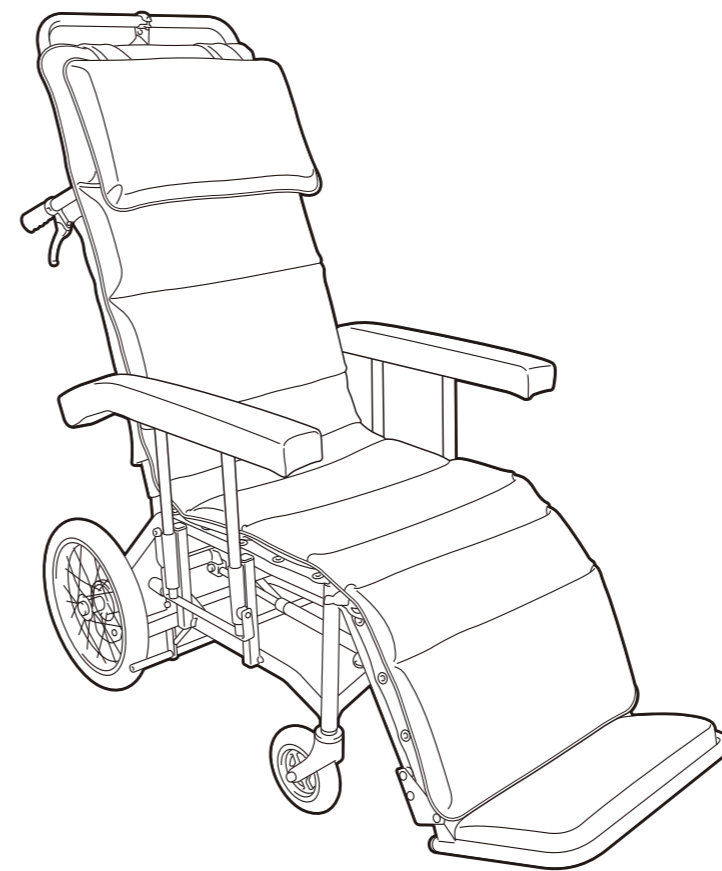
製造元

Wheel Chair
Miki
株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市中区豊三丁目38番10号

MFF-50

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

使用者の身体の状況・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

目次

はじめにご確認ください	2
使用目的・特徴	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
使いかた	6
ブレーキのかけかた	6
車いすの開きかた/たたみかた	7
乗り降りのしかた	8
背シートの倒しかた/起こしかた	8
アームサポートの上げ下げ	9
使用上のご注意	10
保守・点検	10
お手入れ・保管について	10
走行上のご注意	11
段の上がりかた	11
困ったときには	11
仕様	裏表紙
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙

本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

はじめにご確認ください

本製品ご購入後には、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものすべては入っていることを確認してください。

※ご使用前には、必ずシート一式を取り付けてください。

取り付けかたは、別添「シート取り付け手順書」をお読みください。

- 車いす本体
- シート一式 (メインシート / ヘッドサポート / ポケットシート)
- 工具 (スパナ 2ヶ 六角レンチ 5mm・4mm・3mm 各1ヶ)
- シート取り付け手順書
- 取扱説明書 (本書)
- 保証書

使用目的・特徴

本製品は手動式車いすで、一人乗り用です。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的 (スポーツ・入浴など) のものではありません。

リクライニング (背角度調整) 機能を装備しています。

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

- 危険** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
- 警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
- 注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

	警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
	禁止の行為であることを告げるものです。
	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

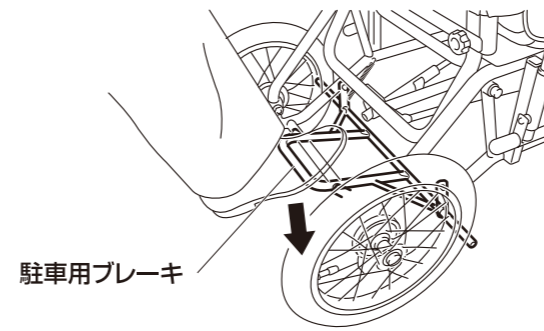
危険

- スピードを出さないでください。** スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。** 坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒や事故につながる恐れがあります。
- 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。**
- エスカレーター (車いす対応エスカレーター除く) や、傾斜のある動く歩道 (オートスロープ) でのご使用は絶対に行わないでください。** 転倒や転落など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。

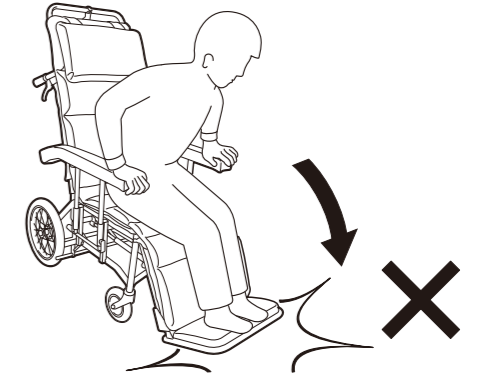


警告

- 乗り降りの際および停止時には、必ず駐車用ブレーキをかけてください。** ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。少しの間の停止でも、必ず駐車用ブレーキをかけてください。
- 乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。** 主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

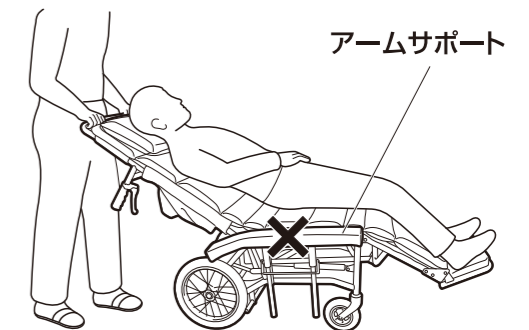


駐車用ブレーキ



乗り降りの際、フットサポートに乗らない

- 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。** 転倒などの事故につながる恐れがあります。
- クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。** 充分注意してご利用ください。
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。** 坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- アームサポート・アームサポートフレーム、フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。** アームサポートやフット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。
- 各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。** 車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。
- アームサポートを下げた状態で走行しないでください。** 使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 手押しハンドル、本体フレーム及びバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。** 過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。
- 車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。** 製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- 前かがみの状態など、車いすの前方向のみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方に転倒する恐れがあります。**



アームサポート

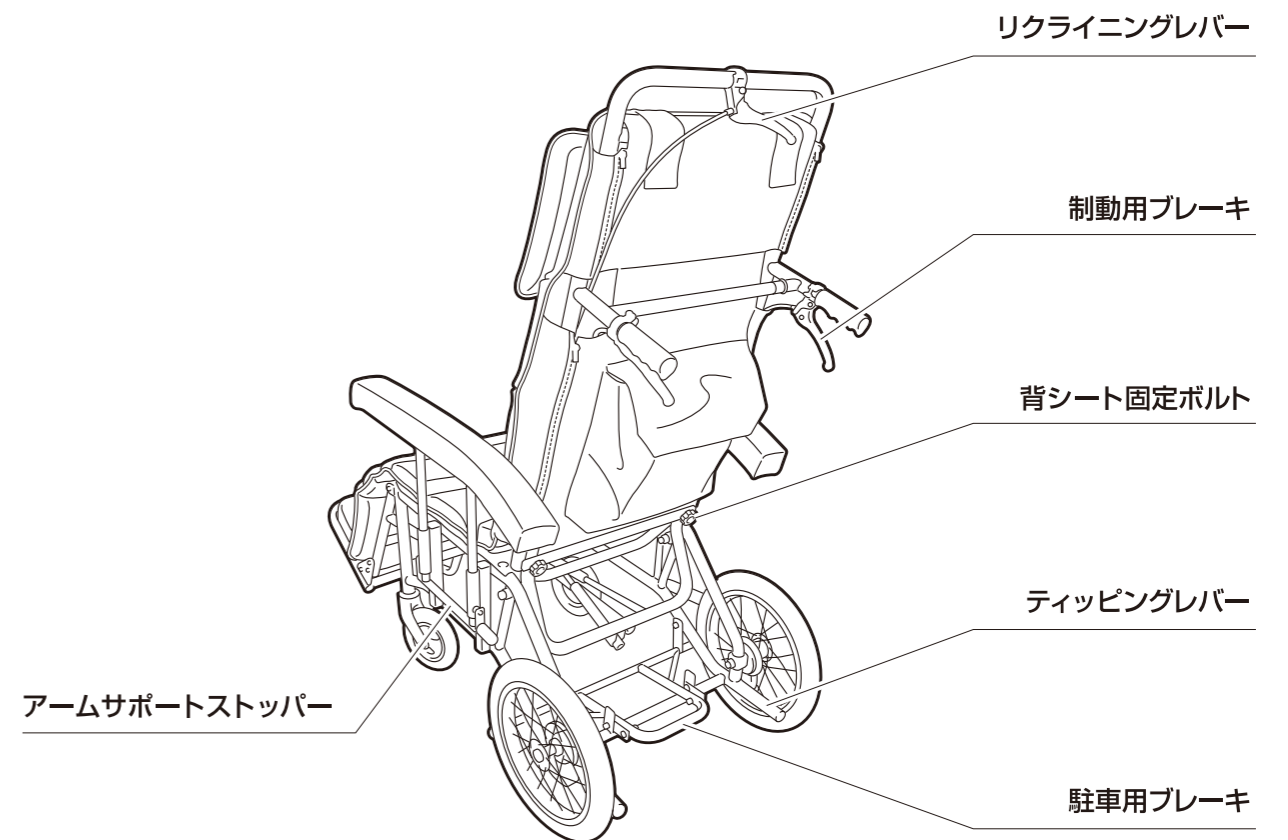
警告

- !** リクライニング操作は、使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。
使用者の手や腕がアームサポートよりも外に出ていたら、手や腕をはさみけがをする恐れがあります。
- !** ティルト・リクライニング操作は必ず介助者が行ってください。
- !** 乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないように注意してください。
けがをする恐れがあります。
- !** リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。
転倒など事故につながる恐れがあります。

注意

- !** この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
- !** フレームに最大体重（積載物も含む）が記載されている場合は、体重制限を守って使用してください。
- !** 駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- !** アームサポートを上げた後は、必ずロックされたことを確認してください。
- !** フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。
- !** 暖房器具にタイヤを近づけないでください。
タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。
- !** 段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。
- !** 車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。
- !** リクライニングした状態の背シートには腰かけしないでください。
転倒によるけがや、車いすの破損の原因となります。
- !** 背シートを後ろに倒した状態では、イスとして使用しないでください。
使用者が転落し、事故やけがにつながる恐れがあります。
- !** 走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。
- !** 走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。
- !** 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- !** フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
- !** 背シートを後ろに倒した状態での移動は、ブレーキ操作ができないため大変危険です。
いつでも停止できる速度で、十分に注意しながら移動してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。
- !** 介助者は、リクライニング操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。
また操作するときは、使用者の体重が手押しハンドルにかかりますのでしっかり支えてください。
- !** シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。

各部のなまえ



ブレーキのかけかた

● 駐車用ブレーキの使いかた

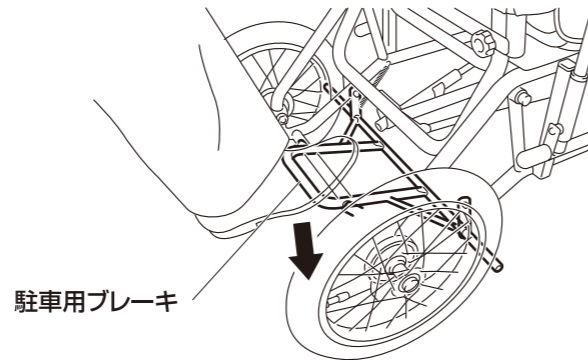
⚠警告	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り降りの際および停止時には、必ず駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。 ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 ・タイヤの摩耗や劣化に注意してください。タイヤが摩耗や劣化すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 ・走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。
-----	---

かけかた

介助者が駐車用ブレーキを足で踏み、ロックするまで踏み下げます。

解除のしかた

足の甲で駐車用ブレーキを上にあげ、ロックを解除します。



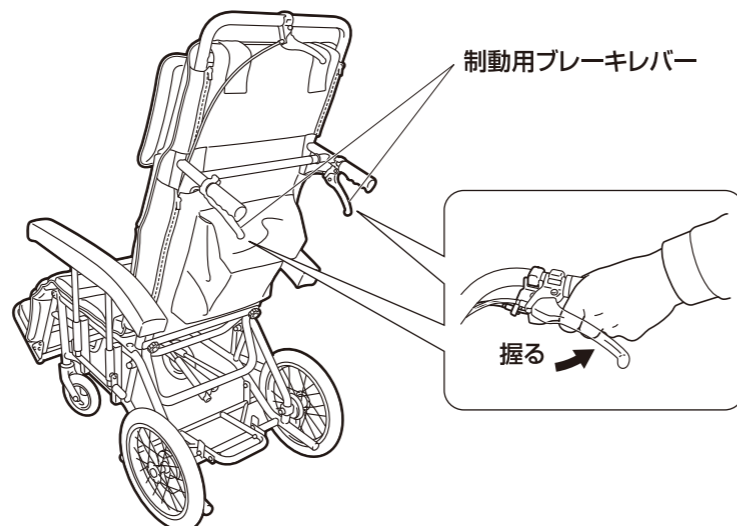
● 制動用ブレーキのかけかた

⚠危険	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。 ・雨の日など路面、タイヤが濡れている状態では、本来の制動力を得られないことがあります。十分に注意したうえで操作してください。
-----	--

⚠警告	制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
-----	---

⚠注意	ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。(交換の目安：1年に一度)
-----	---

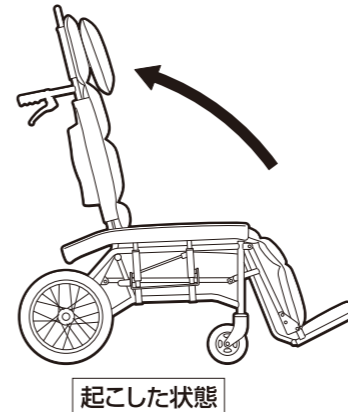
介助者が、左右の手押しハンドル下にある黒色の制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。ブレーキレバー放すと解除されます。



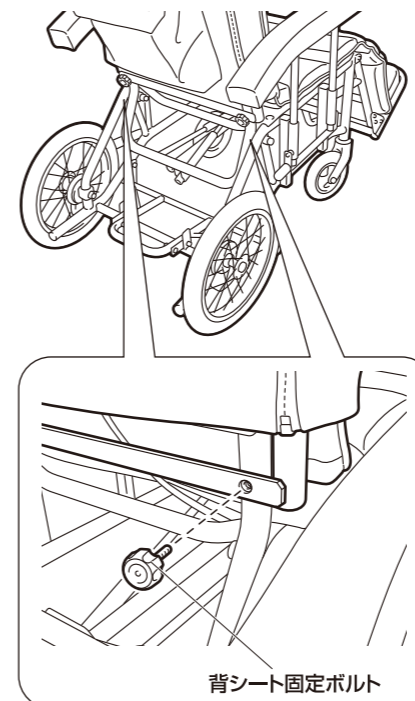
車いすの開きかた / たたみかた

● 開きかた

- 1 駐車用ブレーキを踏んで、ブレーキをかけます。
- 2 背シート固定ボルト(2本)を取り外します。
* ボルトは再び取り付けますので、失くさないように注意してください。
- 3 背シートを起こします。
* 背シートは、いっぱいまで起こしてください。



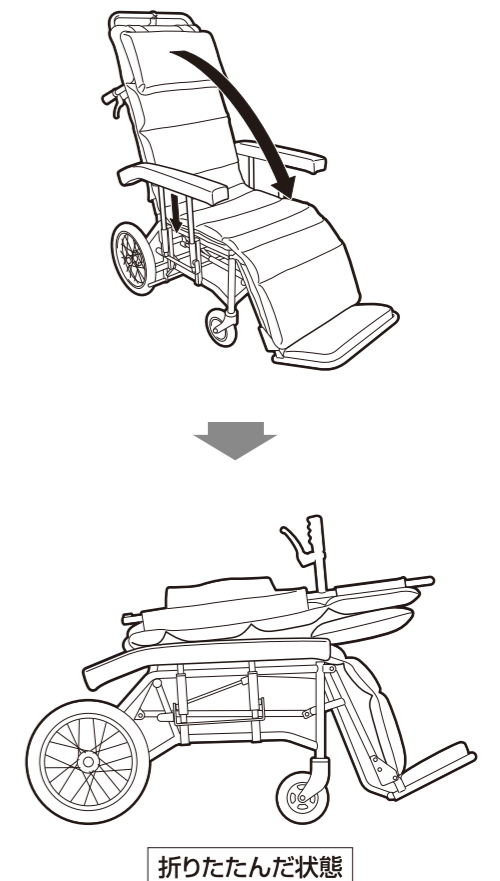
- 4 背シート固定ボルト(2本)を取り付け、締め込みます。
* ボルトがしっかりと締め込まれたことを確認してください。



- 5 アームサポートを上げます。
(P.9「アームサポートの上げ下げ」参照)

● たたみかた

- 1 駐車用ブレーキを踏んで、ブレーキをかけます。
- 2 アームサポートを下げます。
(P.9「アームサポートの上げ下げ」参照)
* アームサポートを下げる時、アームサポートとパイプの間に手をはさまないように注意してください。
- 3 背シート固定ボルト(2本)を取り外します。
* ボルトは再び取り付けますので、失くさないように注意してください。
- 4 背シートを倒します。



- 5 背シート固定ボルト(2本)を取り付けます。

乗り降りのしかた

- ⚠警告**
- ・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
 - ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。

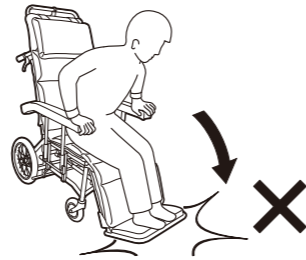
ベッドから乗り移る場合

- **乗るかた**
- 1 車いすをベッドの横へ、平行になるように寄せます。
- 2 駐車用ブレーキを踏んで、ブレーキをかけます。
- 3 背シートを後ろに倒します。
(P.8「背シートの倒しかた/起こしかた(リクライニング)」参照)
- 4 乗り移る側のアームサポートを下げます。
(P.9「アームサポートの上げ下げ」参照)
- 5 車いすとベッドの間に落ちないように注意し、ゆっくり乗り移ります。
- 6 アームサポートを上げます。

- **降りかた**
「乗るかた」と逆の要領で行なってください。

いすから乗り移る場合

- **乗るかた**
- 1 いすの近くへ車いすを寄せます。
- 2 駐車用ブレーキを踏んで、ブレーキをかけます。
- 3 乗り移る側のアームサポートを下げます。
(P.9「アームサポートの上げ下げ」参照)
- 4 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。
*乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。



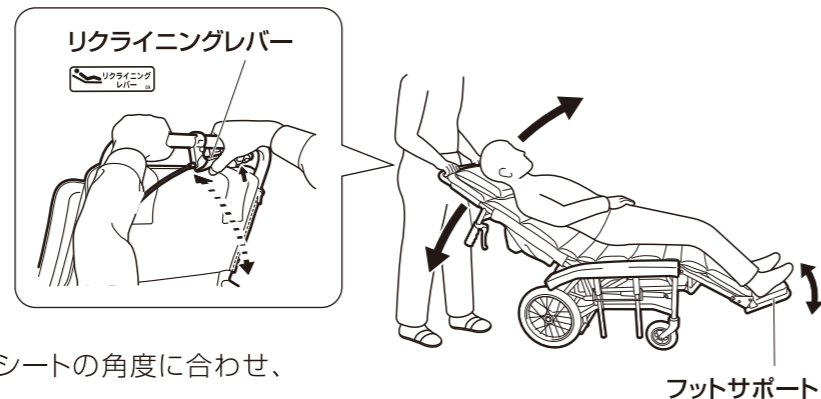
乗り移る際、フットサポートに乗らない

- 5 アームサポートを上げます。
- **降りかた**
「乗るかた」と逆の要領で行なってください。

背シートの倒しかた/起こしかた(リクライニング)

- ⚠注意**
- ・操作は、必ず駐車用ブレーキをかけた状態で行なってください。
 - ・介助者は、操作をする前に「倒します」「起こします」と声をかけてください。また、倒すときは、使用者の体重が手押しハンドルに掛かりますので、しっかり支えてください。

- 1 駐車用ブレーキを踏んで、ブレーキをかけます。
- 2 倒すとき：
リクライニングレバーを握りながら、背シートをゆっくり後ろに倒します。
起こすとき：
リクライニングレバーを握りながら、背シートをゆっくり起こします。



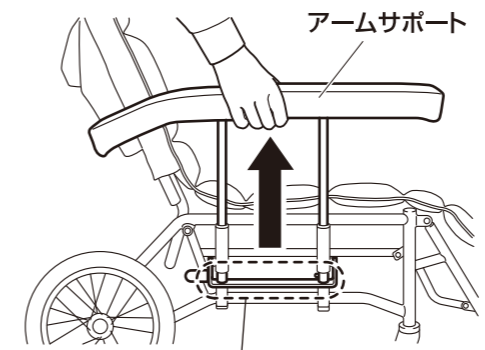
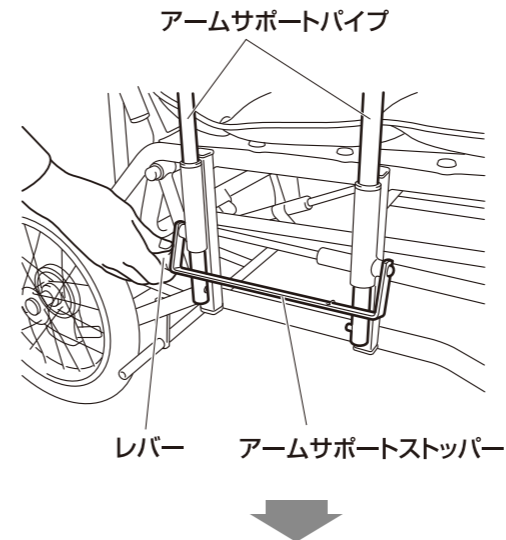
* 背シートを倒したり起こしたりすると、背シートの角度に合わせ、フットサポートが自動で上下します。

アームサポートの上げ下げ

- ⚠注意**
- ・アームサポートを上げた後は、必ずアームサポートが固定されたことを確認してください。
 - ・操作中にアームサポートが下がり、アームサポートフレームとアームサポートパッドの間に指をはさまないように注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

● 上げかた

- 1 駐車用ブレーキを踏んで、ブレーキをかけます。
- 2 アームサポートストッパーのレバーを外側に引き、アームサポートを垂直にいっぱいまで引き上げます。
アームサポートストッパーがアームサポートパイプの下側に入り込み、アームサポートがロックされます。



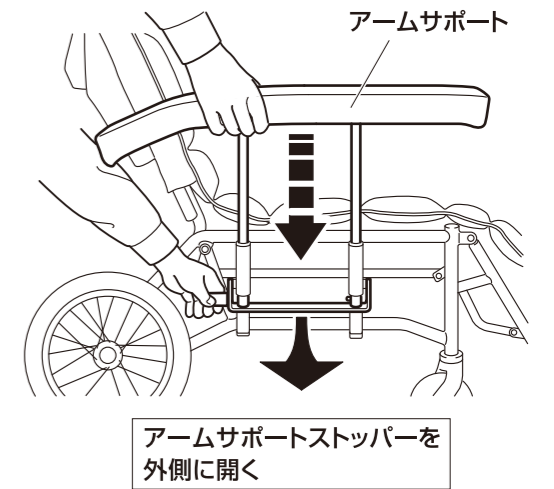
アームサポートストッパーがアームサポートパイプの下に入り込んだことを確認する

- 3 アームサポートストッパーのレバーを戻し、アームサポートがロックされていることを確認します。

* 反対側も同様に上げてください。
* アームサポートを上げた後は、アームサポートがしっかり固定されていることを確認してください。

● 下げかた

- 1 駐車用ブレーキを踏んで、ブレーキをかけます。
- 2 アームサポートを持ったまま、アームサポートストッパーのレバーを外側に引き、アームサポートをゆっくり下げます。
*必ずアームサポートを持ったまま、操作を行なってください。突然アームサポートが下がると、指をはさまる等、けがをする恐れがあります。



* 反対側も同様に下げてください。

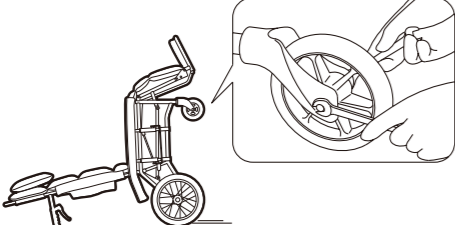
保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

△警告

キャストの回転軸やキャスト・駆動輪(主輪)・ブレーキ等は定期的に点検してください。ゆるんでいるときは増し締めしてください。



- 車いすは熱気、湿気に弱い。湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

● 消耗品、交換部品の確認

△注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。
------------	---

- それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。
- ハイポリマータイヤは、表面に溝がない状態やひび割れがみられる状態で使用を続けると、タイヤ内部に水分が浸食して加水分解を起こし、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
駆動輪(主輪)	タイヤの表面に溝がなくなったとき。タイヤにひび割れなどがみられる場合。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締めつけしても車輪がたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき

● アームサポート、グリップ等の樹脂部品のお手入れ

△注意	<ul style="list-style-type: none"> 車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干してください。 シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
------------	---

● 保管・収納について

- 収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- 錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

△注意	折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。
------------	--

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- 水などがかかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シートのお手入れ

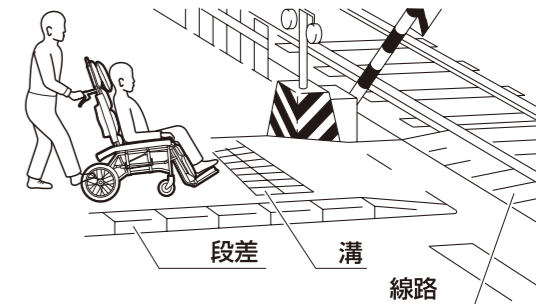
- シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● タイヤのお手入れ

- タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

走行上のご注意

- 車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには充分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。充分注意してご利用ください。
- エスカレーター(車いす対応エスカレーターは除く)、傾斜のある動く歩道(オートスロープ)での使用は、絶対に行わないでください。
- 公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

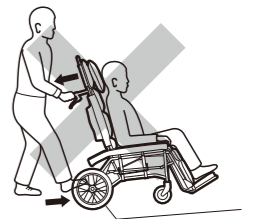


段の上がりかた

△警告	車いすに乗ったまま持ち上げる場合、持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、アームサポートフレーム、フットサポートなどは持たないでください。
------------	--

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行ない、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持って持ち上げてください。

△注意	段差を乗り越える際はティッピングバーや押手での操作は行わないでください。
------------	--------------------------------------



* 無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

困った時には

車いすをご使用されていて『故障かな』と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症状	確認点	対処
車いすがまっすぐ走らない。斜行する。	路面が傾斜していませんか。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 (自走の場合) 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。 (介助者が押す場合) 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。 キャスト軸の回転がスムーズですか。 キャスト、駆動輪(主輪)の計4輪がきちんと接地していますか。	お買上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪(主輪)のタイヤは摩耗していませんか。 駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪(主輪)にきちんと当たっていますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	お買上げの販売店へ修理をご依頼ください。
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買上げの販売店へ修理をご依頼ください。
異音がる。	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	本体や駆動輪(主輪)とオプション品、アクセサリなどの干渉はしていませんか。 可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油汚れなどによっておこる摩擦音はしていませんか。 ボルト類の緩み等がおきていませんか。 フレームに歪みが発生していませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは駆動輪(主輪)など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。 お買上げの販売店へ修理をご依頼ください。
リクライニング(ティルト)の動きが悪い。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かたりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取りまわしを修正してください。改善がみられない場合は、お買上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買上げの販売店へ修理をご依頼ください。